

# 令和3年度第2回堺市文化芸術審議会 議事録

## 1 開催日時

令和3年7月30日（金）10時30分～

## 2 開催場所

堺市役所 高層館20階 第1特別会議室

## 3 出席委員（50音順・敬称略）

|             |                            |
|-------------|----------------------------|
| 柿本 茂昭 委員    | （公募委員）                     |
| さいとう しのぶ 委員 | （絵本作家）                     |
| 菅野 陽子 委員    | （公募委員）                     |
| 中川 幾郎 委員    | （帝塚山大学名誉教授）                |
| 永島 茜 委員     | （武庫川女子大学准教授）               |
| 坂東 亜矢子 委員   | （演劇評論家）                    |
| 弘本 由香里 委員   | （大阪ガス株式会社エネルギー・文化研究所特任研究員） |
| 藤野 一夫 委員    | （芸術文化観光専門職大学副学長）           |

## 4 出席議事関係者（50音順・敬称略）

|          |            |               |
|----------|------------|---------------|
| 上田 假奈代 様 | （堺アーツカウンシル | プログラム・ディレクター） |
| 柿塚 拓真 様  | （堺アーツカウンシル | プログラム・オフィサー）  |
| 川那辺 香乃 様 | （堺アーツカウンシル | プログラム・オフィサー）  |
| 中脇 健児 様  | （堺アーツカウンシル | プログラム・オフィサー）  |
| 宮浦 宜子 様  | （堺アーツカウンシル | プログラム・オフィサー）  |

## 5 事務局職員

文化部長、文化課長、文化課長補佐 ほか

## 6 関係者

公益財団法人堺市文化振興財団  
総務課長、事業課長、事業課係長

## 7 議題

- (1) 会長選出について
- (2) 会長代理選出、アーツカウンシル部会委員の選出について
- (3) 堺市文化芸術審議会への諮問について
- (4) 第2期堺文化芸術推進計画の検証・評価について
- (5) 委員の視察について
- (6) 堺市文化芸術活動応援補助金の採択結果について
- (7) 堺アーツカウンシルからの報告

## 8 議事録要旨

### 開会

---

#### ●事務局

定刻になりましたので、ただいまより令和3年度第2回堺市文化芸術審議会を開催いたします。委員の皆様におかれましてはご多用の中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

本日の司会を務めさせていただきます堺市文化課事務局と申します。

なお、本日の会議につきましては12時までとなっておりますので、議事運営にご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

会議に入ります前に、本日の資料の確認をさせていただきます。

まず、令和3年度第2回堺市文化芸術審議会の次第、次に資料1、堺市文化芸術審議会に対する諮問について、次に、資料2、第2期堺文化芸術推進計画、冊子になっているものがございます。資料3、第2期堺文化芸術推進計画概要版、資料4、第2期堺文化芸術推進計画の検証・評価作業について、資料5、事業カード取りまとめ具体的取り組み一覧、資料6、委員の視察について(案)、資料7、令和3年度堺市文化芸術活動応援補助金採択事業一覧、資料8、堺アーツカウンシルの役割について、参考資料1、堺市文化芸術審議会委員等名簿、そして資料番号入っておりませんが、参考資料2、令和3年堺市文化芸術活動応援補助金のチラシ、以上でございます。

本会議の開催につきましては、「自由都市堺文化芸術まちづくり条例」第25条第2項の規定に基づきまして、過半数の出席がなければ開催することができないこととなっておりますが本日、出席委員が総数9名中8名でございますので、会議は成立していることをご報告申し上げます。

<自己紹介>

<事務局より説明>

## 議題

### (1) 会長選出について

---

#### ●事務局

7月1日より、委員の新たな任期が開始となりましたので、ここで「議題（1）会長選出について」に移りたいと思います。

会長は、条例第24条の規定に基づきまして、委員の互選で定めることとなっております。どなたかご推薦いただける方はいらっしゃいますでしょうか。

弘本委員お願いいたします。

#### ○弘本委員

この間、様々な事業の見直しやアーツカウンシルの立ち上げ含め、議論をリードしてきていただいた中川委員にぜひ会長を引き続きお願いできたらと思いますが、いかがでしょうか。

#### ●事務局

ありがとうございます。ただいま弘本委員から中川委員を推薦されるご発言がございましたが、どなたか他にご推薦いただく方はいらっしゃいますでしょうか。

いらっしゃらないようでしたら、中川委員に会長にご就任いただくことにつき、ご賛同いただけますでしょうか。

ありがとうございます。それでは、中川委員に会長をお願いいたします。

### (2) 会長代理選出、アーツカウンシル部会委員の選出について

---

#### ●事務局

続きまして、「議題（2）会長代理選出、アーツカウンシル部会委員の選出について」に移らせていただきます。条例第24条第3項に審議会の会長が会長代理を定める旨の条項がございますので、ここで中川会長にご指名をいただきたいと思っております。

中川会長どなたかご指名いただけますでしょうか。

#### ◎中川会長

ただいま会長ということでご指名いただきました。以後、どうかよろしくご協力のほどお願いします。私としましては今、最先端の研究領域を開拓しておられる藤野先生に引き受けていただいたら、大変嬉しくありがたいなと思っておりますので、藤野先生ひとつお願いできませんでしょうか。

#### ○藤野委員

若輩者ですけど、中川先生は私の恩師でもあり、大先輩でもありますので、お受けさせて

いただきます。よろしくお願いいたします。

◎中川会長

ありがとうございます。次にアーツカウンシル部会委員をここで指名するわけですかね。事務局から位置づけを説明して下さい。

●事務局

堺市文化芸術審議会では、堺アーツカウンシルとの有機的な連携、堺市文化芸術活動応援補助金の審査等を目的としまして、自由都市堺文化芸術まちづくり条例施行規則第 5 条に基づいて、アーツカウンシル部会を設置しております。こちらにつきましても、中川会長から今おっしゃっていただきましたように、部会委員の方のご指名をいただきたく考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◎中川会長

ありがとうございます。それではアーツカウンシル部会の委員さんに、前期と引き続いての委員さんもおられますが、新しくお願いする委員さんもおられます。順次お名前を申し上げます。

菅野委員さん、坂東委員さん、弘本委員さん、永島委員さん、この 4 人の方をお願いしたいと存じますがいかがでしょうか。

●事務局

ありがとうございます。それでは会長代理に藤野委員、堺市文化芸術審議会アーツカウンシル部会の委員として菅野委員、中川委員、永島委員、坂東委員、弘本委員、よろしくお願いいたします。

それでは、これからの議事進行につきましては中川会長をお願いしたいと思っております。中川会長どうぞよろしくお願いいたします。

◎中川会長

皆さん改めましてよろしくお願いいたします。前期の委員の構成は 13 人おられたんですが、今期に 9 人に縮小されているんです。

それで、その辺の事情なんかを先ほど事務局に少しお伺いしていたら、どうもそのアーツカウンシルを抱えるということになってアーツカウンシルの方が現在 5 人おられますよね。その 5 人を足しますと、結局 14 人になるんです。

なので、ほぼ前期と同等の審議会の規模なので、そのアーツカウンシルの方々は、審議会の委員ではないけれどほぼ同等の扱いと、そういうふうにお考えください。

### (3) 堺市文化芸術審議会への諮問について

---

◎中川会長

それでは、「議題（3）堺市文化芸術審議会への諮問について」審議します。事務局からご説明をお願いします。

<事務局から説明>

◎中川会長

ありがとうございます。本審議会は堺市長から条例に基づく計画の進捗管理について諮問を受けたということになります。これは、この審議会のどちらかと言いますと年度ごとのルーチンワーク、定期定例のいわば勤務評定を行うと言ったらいいすぎかなとは思いますが、計画がどれぐらいきっちりと進行されているんだということを点検する役割を担っているわけです。それについて認識を皆で共有しておきたいと思しますので、よろしくお願います。

### (4) 第2期堺文化芸術推進計画の検証・評価について

---

◎中川会長

それでは引き続きまして「議題（4）第2期堺文化芸術推進計画の検証・評価について」審議いたします。事務局からご説明をお願いします。

<事務局から説明>

◎中川会長

今日のお話の中で一番これが、質問が多かろうかなと予想するんですが、何なりと分かりにくいことについて、ご質問ください。ご随意に手を挙げていただいたら結構です。検証評価の仕方ということですよ。

ちょっと私の方から言葉を足しますと、アートとか文化事業に関する評価と言ったときに、アーティストがやっている中身が非常に優秀かどうかなんてことについての議論をよくされる方がありますが、我々はその議論については立ち入る気はありません。

そうではなくて、それは鑑賞された方々が評価されれば良いのであって、公共事業としてやっている限り、それが社会的にどのような良い影響を及ぼしたかを評価します。

つまり、いいものはいいんですという論理には私たちは立ち入らないということです。社会的な効果、評価がもらえれば議論しようということでもあります。そのためにお願いしたのは、個別の各部局がおやりになっているたくさんの事業があります。堺は政令指定都市でもありますから、すごくたくさんの事業をやっているんですけど、その事業を全部、個別のカードに取りまとめてくださいと、これをお願いして、これは約2年ぐらいかかったと思いま

す。この事業カードを集計していく中で、この計画の項目ごとに対応した事業がどう分布してるかということを整理していただきました。その整理したものがこの具体的取組一覧、これに中間集計されてるわけですね。

だからこれが一覧表で、ここから先に細かく見たければ、この事業カードを見るという構造になっています。

ですので、この審議会も、ちょっと辛口で言いますと、評論家の集団では困るわけで、きちんと今申し上げたような、その観点に立って評価をしていただきたいということになりますので、そのためには、所管部署とですね、真剣勝負になります。所管部署においても、自己評価をしてくださいとしておりますので、成果指標は必ず所管部署からの提案としてつけてください、とお願いしています。

なお、この成果指標は理想論を言いますと、コストエフェクト、もしくはアウトカム、つまり成果指標が欲しいんですけど、なかなか難しい面もあります。

結果の調査っていうのはタイムラグが後になったりしますんで、そんな後まで取れないというケースもあるから、その場合は補助的、暫定的に算出アウトプット量、サービスアウトプット量で出してもらってもそれは構わないと言っております。ただそれをやることによって、間違いなく良い効果が出るんだという確信があるならそれでやってください。お互いにですね、所管部署も真剣勝負、こちらも真剣勝負でいきます。という仕組みがこれです。おわかりでしょうか。

なお、一部というか、考え方のかなりの部分をアーツカウンシルの皆さん方に協力していただいているわけですよ。特に補助金等の事前チェックをして頂くにあたっては、この評価の指標といいますか、これを意識してやっていただいていると思います。そういう点では大変ご苦勞をおかけしていることをこの場で感謝したいなと思っています。ありがとうございます。では他に質問ございませんでしょうか。

#### ○中脇 P0

重点的方向性の1の文化芸術その2の2つ目にある、地域文化会館における地域マネジメント機能の構築というのが、本年度から始まるんでしょうかね。現状値がないことになっているんですけども、これに対する、この資料2の文化芸術推進計画の26ページを見ているんですけども、その文化芸術と共に生きるの2番目です。

地域マネジメント機能の構築というのも、機能構築を目標値にするというのは、これ具体的にどういうものかは、単純にちょっと後学のために知りたいなと思ったんですけど。

#### ◎中川会長

これは計画段階での書き方ですが、どういうふうに指標化しようと思いましたかね？

#### ●事務局

定性的な目標の立て方になっておりますので、例えば、P0さんのような方が配置できたら目標達成という概念もございますけれども、今、地域文化会館ですね、堺市文化課が所管して

いるものも含めまして、フェニーチェ堺とあと各区に文化会館も持っております、各々、文化芸術事業を展開しております。

今はコロナの影響もあるんですけども、堺アーツカウンシル主催で勉強会ということも開催してまいりたいと思っております、今は当然、各地域文化会館は全て指定管理者制度で運営をいただいておりますけれども、事業担当がおりまして、それらの人員増というのは、なかなかコスト面も課題になっていると思います。文化振興財団がその指定管理を多く担っておりますので、これらの人材のですね、スキルアップというところでこういうマネジメント機能を構築していきたいと考えております。なかなかどこまでいったら達成かというところにお答えできているかわからないんですけども、ポジションというよりは機能の向上、スキルの向上、スキル向上に伴う事業の発展、向上というところでですね、5年間で着実に実施して行って、7年度終わった段階で今の段階よりも非常に進んだなというところですね。目標が定性的で申し訳ないんですけども、ゴールという形で位置づけておきたいなというふうに考えております。

◎中川会長

ありがとうございます。これはむしろ、中脇さんなどにご指導いただけたら、事務局としては助かるんじゃないですか。

●事務局

8月も今回、緊急事態宣言が出そうですので、検討しないといけません、8月に2回ですね、我々の所管する地域文化会館の職員、フェニーチェの職員、あと所管外になりますけれども、中区にソフィア堺という中文化会館もあるんですけども、その職員交えて勉強会を中脇さん中心にやっていただこうと思っております。それらでマネジメント能力の向上ということを図っていきたいと思っております。

◎中川会長

中脇さんいかがですか。宜しいですか。

○中脇 P0

理解しました。ありがとうございます。

◎中川会長

これについては、余分な発言は出来るだけしないほうがいいと思うんですけど、実は全部、地域文化会館バラバラにして指定管理の対象になっていたんです。そうすると、文化振興財団が全部一括して受けることが出来なくなっている、各指定管理者団体ごとに、きちっと地域マネジメント機能が必要ですよということを言っているんですけど、どれぐらいそれがちゃんと確立されているかということは我々が評価させていただきますよ、お目付け役ですよ、こちらは。そういう脅迫をしているわけです。だから、確立されているかどうか毎

年見ますよ。単に、箱を貸し箱にしてね、貸しホールにして、単に集客力のあるポピュリズムの演目を流しているだけじゃないですよ、地域の課題に太刀打ちした、プログラムを開発し、地域の住民と参画協働型で地域文化ホールを経営するという回路を開いてくださいという意味です。

他に質問ございますか。はいどうぞ、藤野委員。

#### ○藤野会長代理

これまでの経緯を私がよく理解してないので教えていただきたいんですけども、まず中川会長が今回の評価については、社会的な評価、社会的なインパクトを中心に評価されるとおっしゃられました。私は評価のことをいろいろ考えるときに、自分自身も音楽批評をやっていることがあってやはり、芸術的評価というのをどうするかというのは大変難しいなと思っています。そこは一応もうまとめるという事でよろしいですね。

それからもう一つ社会的っていう言葉がなかなか理解しづらいところがあって、国の方でも社会的な価値を経済的価値なんてことを最近は言っています。

私、文化政策を考えるときに、人づくりと、社会づくりとまちづくりって3つから考えることが多いんですけども、ただその社会づくりとまちづくりが混同されることが多いですね。まちづくりもあのハード系、いわゆる都市計画系と、それから最近のソフト系、何かイベントをやるとか、そういったものがごっちゃになって、人によってまちづくりって言ったときにイメージが違ってくると思うんですね。私の社会的なインパクトと、そのまちづくり、つまり経済的な評価に結びつきやすいようなまちづくりとはまたちょっと違ってくると思うんですが、その場合の経済的な価値を評価するようなまちづくり系も今回はまとめるといふ考え方でよろしいですね。

#### ◎中川会長

3番の重点的方向性にはその要素が入っています。1番、2番のほとんどがソーシャルインクルードか、あるいは社会的インパクトの方にシフトしていると私は理解します。3番には経済価値も否定はしていません。

#### ○藤野会長代理

もう1点なんですけども、堺市には立派な財団があります。フェニーチェを運営していません。

私は文化振興財団の理事という立場で関わっていることが多いんですが、理事会も、例えば中期経営計画のようなものを作ってその進行管理をしています。さらには評議会もあります。その理事会がやっている自己評価の部分と、この審議会で行う評価との関連性、連動ってというのはどこまであるのかっていうことを知りたいんです。

例えば、中川先生がなさってきた滋賀県の場合も立派な文化審議会がある。私はびわ湖ホールの理事を15年間やっていますけれども、びわ湖ホールの理事会で滋賀県の文化政策の方針が語られるということは皆無です。滋賀県がやっている評価がこちらにおりてくると

いうことも皆無です。

神戸市の文化振興財団も市との連動がありません。審議会もありません。ということで、文化振興財団の自己評価と私達の評価とどう連動するのかすごく曖昧なままですね。尼崎市の場合も財団があって自己評価をしているんですが、それとは別に外部評価委員会を作っていたので、若干連動ができるような形にはなっているんですけど、まだ自治体によってその文化振興財団がありつつ、そこでの理事会とかでやっていることと、それからこういった審議会で評価していることとの連動っていうのか、見えていない状況だと思うんですね。その辺りの整理とか考え方っていうのは、堺はどうなっているのか。

#### ●事務局

藤野先生に全てお答えできるかどうか分からないですけども、この審議会も、当然堺市文化振興財団が実施する事業は今回検証対象で、実際の視察も行っていただいておりますし、堺市文化振興財団の実施している事業は、市の補助事業でございますので、当然検証対象になります。

ただ、財団全体の、例えば財団自身も中期の経営計画を、自分達で方向性を定めてやっていておりますし、各々、評議委員会、理事会を構成してですね、自分たちで自ら考えてやっていただいておりますので、この審議会が、その財団の経営の根幹に関するところまで踏み込んでいくのかということになると少し疑問点というか、それは審議会の範疇ではないのかなというふうに考えます。ただ事業については、今日は堺市文化振興財団から3名来ておりますけれども、我々も逆に評議員会、理事会に参加してまいりますし、文化振興財団もこの審議会に参加して意見を聞いてですね、評価対象になってまいります。我々もその他の都市の文化課と文化振興財団の一般的な関係というのはいろいろと見聞きするところはあるんですけども、その審議会が大きく方向性に携わっていくというところに関して言うと、我々として考えるのは、十分に連携は取れているというふうに思いますし、検証対象の事業に審議会も携わってきておりますし、文化振興財団の事業につきましては、一昨年度、審議会での評価対象ということでかなり長い時間議論をいたしまして、こうあるべきだということを審議会の方から提言をして、文化振興財団もそれを重く受けとめていただいて、どんどん良い方向に変わってきているというふうに思います。ただそれが経営面であるとか、人員体制面であるとか、その辺まで審議会で議論するというところは少し違うのかなと思いますけれども、特にソフト事業ですね、館の管理であるとか文化振興財団が直接やっていく事業につきましては市とも十分連携しておりますし、それはこの審議会の評価対象になっていると思っておりますので、そこは全部が密接にということはないんですけども、ソフトでは十分連携を取っておりますし、意思疎通もできていると考えております。

#### ◎中川会長

藤野先生ね、びわ湖ホール財団、合併後のびわ湖ホール財団と言っているのかなと思うんですけど、滋賀県の文化審議会の中でも評価の対象に僕はなっていると思うんですね。ところが滋賀県は文化条例もある、文化基本計画もあるにもかかわらずびわ湖ホール財団は少し

距離があったことは事実です。

これが議会においても、批判の対象になった時期があって、あのびわ湖ホール問題の年度というのがあったんです。そのときに審議会がだいふ助け舟を出したという経過もあって、今はかなり良い関係になってると思うんです。その後、びわ湖ホール財団の事務局長もしくは事務局長代理が審議会に在籍しなさいとルール化されました。堺はもうすでにそこにおられるように、きちっと議事関係者として出席しておられますよね。そういう点では、滋賀県の方がちょっと遅れていたと思うんですけど、いまだにその状態であるというのは私は危機感を感じます。元の会長としては、だから、ちゃんと県の方針通りに財団の運営をされているのかどうかということは当然評価の対象になるんで、理事としても先生の方からちょっとアピールしたらいいかなと。

神戸市の場合は、条例もない、基本計画もない、まったく何もないんですよ。ですから、神戸市文化振興財団が自主的、主体的にやってくださいという姿勢なんですよ。神戸文化ホールがメインホールで各区民ホールがそれをちゃんと枝ごとに分断してやっているという関係になっていないんです。あそこもみんなバラバラに指定管理出しちゃっているから、灘区民ホールとか東灘区民ホールは全く違うし、もう統一性がなくなっている。そういう意味では、神戸文化ホールのみが必死になって頑張っているというような感じが私はしますね。尼崎市は知りませんが、尼崎市は条例ないんじゃないでしょうかね。あったかな。ありました。文化条例。

だからその辺でね、財団は財団で、治外法権でございませぬ自治体がまだ多いことは事実です。ただ、堺の場合はそういうわけにいかない。なぜかという、市から出している補助金の審査をやっぱり我々がするわけですね。そのときにこの補助金はどのように使われているんですかということについては、財団ともものすごく深い会話をしましたので、財団側におかれても、堺市の文化基本計画に沿った事業をするということについての理解は深まったと思います。

それともうひとつはこの数年間で、集客型の事業と社会貢献型の事業との交通整理ができたんじゃないか。集客型というのは、安い金額でたくさんの人に見てもらったらいじゃないですか、これは否定しませんが、そうではなくて、文化振興基本計画に沿った、例えば乳幼児対象の事業であるとか、あるいはその時間がないし忙しいという人を対象として事業とかやっていると、こんなもん収益上がるわけがないですよ。そういうものについては社会貢献型、社会公益型事業として、一定の補助金を出すという正当性はあるわけで、そういう交通整理はだいふさせてもらいましたんで、堺市の文化財団との関係については非常に風通しは良くなったと私は思っています。こんなところでお答えになってますでしょうか。他にご意見ございますか。

○上田 PD

とっても些末なことなんですけれども、この事業カード取りまとめ資料5ですね、見せていただきました。非常に時間がかかったことなんじゃないかなと思って拝見しました。

ところがですね、この成果指標のところなんですけど、例えば1番上にあるホームページ

のアクセス件数というのはありますけれども、最近の若い人はもうホームページも見ないんだとか、YouTube を見るということで、この件数をだしても、実際世の中と合わなくなってきたら、数字が減っていくので、あまり良い指標にはならないかもしれないなと思いました。人口も減っていく中で、せっかく経年でとっている数値ですから、この辺のことなんかもちよっと考える際に、プラスして SNS とかも加える数値にするのかとか、ちよっと補助をつければ数字が良くなるのではないかと思ったりとか、また中にはアンケートの結果を指標に上げているところもありますし、状況に応じた良い指標が見直せるところがあればいいなと思いました。以上です。

◎中川会長

ありがとうございます。

アナログでないデジタルのやつについては時代とともに変わるので、これについては弾力的に補助指標を考えて欲しいということですよ。それ以外のほとんどがアナログなんですよ。来館者数とか、提携件数とか。そういうご意見を活かしてください。

○柿塚 P0

詳しく資料を確認したいんですけど、2 ページにあります連番 10 の堺市文化振興財団事業補助については担当部署が文化課となっていますんで、これは文化課が評価をされるという理解で、7 ページの方に同じく担当部署が直接文化財団になっているものが 42 番 43 番 44 番とありますが、それについては直接財団が評価をされるという、そういうすみ分けがされているということでしょうか。これはときには重複しているものを 10 番については文化課が評価され、42 から 44 に関しては財団が評価されるということなんですか。

◎中川会長

はい、補助金の支給元は文化課である。それを使った事業は財団がしているという関係だと思っんです。今の評価の関係を説明してください。

●事務局

今、中川会長がおっしゃっていただいた内容が、正しいところだと思っんですけれども、堺市文化振興財団に対しまして、市から補助金を出しましてですね、いろんな事業やっただいてはいるんですけども、この評価は、文化課がやっっていくという形で、先ほど柿塚 P0 がおっしゃった 10 番のところは、担当部署名が文化課になっております。この事業カード自体は、いろんな人がいろんな事業をやっっていくんですけども、42 番、43 番のアートスタート、ミーツアートこれは補助対象事業でございまして、この文化振興財団が主体となってやっっていくという、自己評価という形になっておりますので、担当部署名がわかれているというふうにご理解いただければと思います。

○柿塚 P0

10 番の成果目標の社会包摂型事業の実施本数というのは、この 42 から 44 の実施件数に連動しているんですかね。

●事務局

そうですね、基本的に連動しております。

◎中川会長

よろしいですか。みなさんきちっと鋭いご指摘なので、よろしくお願いします。ほかないですか。最後に気がついたことがあればご発言いただく機会を設けます。それでは次に移ります。

#### (5) 委員の視察について

---

◎中川会長

次は議題の「議題（5）委員の視察について」事務局さんからご説明をお願いします。

<事務局から説明>

◎中川会長

ありがとうございました。このような形でやろうと思いますので、各委員におかれましてはご都合のつく限りできるだけ、ご視察にご協力をお願いしたいと思います。それぞれで希望を言えばいいんですね。よろしくお願いします。

#### (6) 堺市文化芸術活動応援補助金採択結果について

---

◎中川会長

それでは続きまして「議題（6）堺市文化芸術活動応援補助金採択結果について」ご説明をお願いします。

<事務局から説明>

◎中川会長

これにつきましては、すでにスタートしていただいております堺アーツカンシルの皆さん方の、公募型補助金の事前チェックというこの機能をフルに発揮していただくわけでございます。

それからなお、先般私も見させていただきましたけど、合格されたところばかりでなく、不合格となってしまったところに対しても、上田ディレクターが非常にきちっと丁寧にコ

メント案を書いてくださっていて、私はすごく嬉しかったです。ここをこうすればもっと良くなります、ここをこうすれば次年度いけるんじゃないでしょうかみたいな希望がここに感じられました。

落ちると、非常に落胆される場所もありますが、非常に心が行き届いた配慮してくださったことに感謝します。これについて、上田さんの方からお言葉があれば、どうぞ。

#### ○上田 PD

補助金の審査、そのものには関わるわけではないという立場で、全ての団体さんや活動されている個人の方が採択されるように思っていた関わり方をしました。実際問題、書類を長く見た方かなと思いますので、そこで不採択の方にも言葉を紡ぎたいなと思ってお返事も書きました。今後は、その採択された方の事業も伴走支援という形で関わらせていただくのが塚アーツカウンシルのひとつの責務かと思っています。

ただ、個人的には伴走支援というと、何か支援という言葉がちょっと重たいかなというか、余計なお世話感もあるので、調査の部分も兼ねてお話を伺わせてくださいという形でお訪ねしようと思っています。今、訪ねるところを大体決めたところで、POさんと、そして私とで訪ねていこうと思っているところです。なるべく採択された事業を覗きに行こうと思っています。

#### ◎中川会長

それでは他にご質問などございますでしょうか。

#### ○藤野会長代理

これ、今年度は全く初めての補助金ということですね。それで、大きなところ、300万円の舞台芸術創造発信のところで、3件で600万円ですかね。これは、今まで何か別の枠で助成金が市から出ているということがあったんでしょうか。

#### ●事務局

補助制度はあったんですけれども、固定した事業について補助金を交付しておりまして、それを審議会でも議論をいただきながら見直しを図ってまいって、新たな制度ということで、この公募型補助金を立ち上げたという形になります。

今までも補助制度自体はあったんですけれども、公募型という形ではなかったところを、審議会のご助言をいただいて、変えたという形になります。

#### ○藤野会長代理

総額でいうと旧来のものよりも額は上がっているのですか。

#### ●事務局

令和3年度の採択額は約1800万円になるんですけれども、令和2年度の交付金額では

1600万円ほどでございましたので、公募にするにあたって、若干枠は増やして予算配分している形です。

○藤野会長代理

私が知りたいのは過去補助金を受領していた、ちょっと言い方が悪いかもしれないですけど、それで1600万、200万増やして1800万で公募になったからクリアになった、それはすごくいいことだと思うのですが、その今までの自動的に助成されていたところと、それから今回、選ばれたところでどのくらい違いがあったのか、額がどういうふうに変ったのかという、そこまでわかると私は非常に意味深いと思うんですけど。

●事務局

この公募型になり、今まで交付していた団体もご応募をいただいております、金額ベースでいくと、だいたい4、500万、すみません、細かい数字は出ないですけども、500万ぐらいが、令和2年度も交付していた団体で、件数ベースでいきますと約40件採択の1割程度が昨年度まで交付していたところですので、新しいところが増えたというふうに認識しております。ですので、今まで交付していた団体が応募いただいて、先ほど申し上げた全体の採択率が5割でしたので、不採択になったというところも、事象としてはございます。

○藤野会長代理

かなりドラスティックな変化ですよ。なかなか他の市でやろうとしても出来ないことだと思うんですが、そのことが今スムーズに移行しているというお考えですか。

●事務局

そうですね、この補助金の流れにつきましては、十分な議論、審議会での議論を答申という形で頂戴いたしまして、補助金の団体とも議論をして変えてこれたかなという、当然先ほど、藤野先生がおっしゃられたドラスティックというところで議論があった点の一部ありますけれども、何をもってスムーズというところはあるんですけども、概ねスムーズというか、変えてこれたかなと思います。先ほど申し上げたように、令和2年度に交付していた団体に応募いただいたんですけど、不採択になった事業もあるんですけども、そちらにつきましても引き続きアーツカウンシル中心に支援をしていって、次年度に採択されるような内容に変わっていただきたいというふうに思っておりますし、アーツカウンシル中心にいろいろな文化団体を支援することによって、補助金に応募していただけるより良い団体が増えるように努めていきたいと。令和2年度まで継続的に交付していた団体についても同じようにブラッシュアップをしてこの公募型補助金で採択を勝ち取っていただきたいというふうに思っております。

○藤野会長代理

上田さんをはじめとして、アーツカウンシルの功績がすごく大きいということですね。

◎中川会長

一番心配したのは、藤野先生がおっしゃったりバウンドが起こるということです。つまり、オープンシステムにすると、今までクローズドシステムでもらっておられた団体が、痛みを感じられるわけで、それを批判する気は一切ないわけですよ、こちらは。しかしながら、その自己評価もしていただきたいし、やっぱりパブリックなお金でありますから、社会の評価にさらされるということにもう少し慣れていただく必要があるなというのがあります。

ただ、いきなり、こっちから右から左にバーンとオープンシステムに移るとするのは、つらい団体も中には一部あったと私は聞いています。だから、それについては当方はアーツカウンシルの所管事項ではないと。前の総予算よりまだ2、300万積んでくれているわけですから。増えた分がたくさんの市民に行き渡るようになったことの方を評価したいなと、我々は思っています。

○藤野会長代理

関心があるのは、その今の移行というのがね、本当にうまくいっているのかどうかという評価ですよ。それは今後の他の自治体にも関係してくることは、日本の文化行政全般に関わってくることなので、そこなんか内部だけでということよりも、オープンになった方がいいなという気がしますよね。

◎中川会長

ですからアーツカウンシルの方をお願いしたのが、オープンシステムのものをもっと成長させていくべく、みんなの人気を得られるとかね、支持を得られるような選考の仕方を開発してもらおうということだったんですが。うまくいったのではないかと思います。落ちた団体も、わざわざコメント案をきちんと書いてくださったというのが、我々にとって望外の喜びでした。ただでさえ、平地に乱を起こす仕事ですから、これは。他よろしいですか。

○さいとう委員

広く、いろんな方たちに知っていただいて、助成金を受けるということに関して、私、職業柄ですが、このチラシについて、こないだ来ていただいたときも言ったんですけど、硬すぎて素通りしちゃう感じがあって、もっと広く、パッと見て、助成金を受けられるんだというような。内容は非常にわかりやすいんですけど、パッと見た感じが何か硬すぎるなという印象があるので、これをより良くパッとこうキャッチフレーズとしてすぐわかるような内容にすれば、もっと広く、いろんな方にこれを知ってもらって、助成金を受けたいですという気持ちになってもらえるんじゃないかなと、職業柄思いました。

◎中川会長

おっしゃるとおりだと思います。文化芸術活動応援補助金なんだからデザインももうちょっと考えてとおっしゃってると思います。これからはね、アーツカウンシルのメンバーもおられるしね、さいとう先生もおられるんだから、ちょっと見てもらえますかと見てもらっ

たらどうでしょうか。

○永島委員

今回なくてもいいと思うんですけど、こういう助成金はだいたいこの枠組み自体が決められているんですけども、やはり、その枠組みに当てはまらないような助成をだそうという立場からすると、どの事業がどの区分にふさわしいか、そういう枠組み自体も今後は少し考えていったりとか、あとはこの採択されたものを見ていても、もしかするとこのスタートアップで採択されたものや、あとはもう割と確立しているような活動、例えば先ほど、藤野先生がおっしゃったようなシティオペラとか、大きな活動ですよ、そういうのがバラバラに採択されて、それぞれ活動してもらおうというのも、もちろん必要です。ただ、それを結びつけつつ、有機的に繋がっていきけるような仕組みというの、今後は検討していく方が、一つひとつバラバラで勝手に活動しても結びつかないというか、やっぱりせっかくお金使ったんだしたら、それぞれ若い団体があるんだしたら、それをもう少し成熟した団体の活動と結び付けたりとか、そういうのを今後は展望としてもあってもいいんじゃないかなというふうに思いました。

○上田 PD

同じこと考えておまして、せっかくこの年に堺市のこの事業に参画いただいたっていう皆さんにぜひネットワークを作っていただきたいと思って、事業報告のことも大変ですからその説明会とかですね、そのときに皆さんと一緒に話ができる場面であったりとか、また市民向けの勉強会も含めて採択された方、不採択の方も含めて、底上げになるような繋がりが生まれるようなことというのを企画してですね。ただちょうどコロナで開催が厳しかったりとかあるのですけれども、オンラインを使ったりとかしながらと思っています。

◎中川会長

ちょっと時間押し気味ですが、堺アーツカウンシルからの報告があります。事務局からご説明をお願いします。

<事務局から説明>

○上田 PD

先ほどから中川先生に時々振っていただいたので、お話もさせてもらっています。概ね、4つぐらいのことをしようと思っていて、し始めたり、これからということもあります。

1つは補助金です。補助金の話は先ほど申し上げましたが、さらに付け足しとしては、出来ましたら観客として参加いただいた方、ワークショップの参加者にアンケートを呼びかけて、もちろん実施事業者が自分たちの事業の報告の際に役立ち、自己評価をしていただくと同時に、その結果を堺市の状況として考えていく調査に結び付けたいと考えています。

そして、アーツカウンシル自体が事業実施するわけではございませんので、堺の文化芸術の推進を図るということで、地域文化会館や財団の職員の方に、研修といえはおこがましいんですけども、一緒に考えていくような機会を作りまして、そうした底上げを担っています。とりわけ私としては、その中でのチーム作りを特に意識をして行っています。

もう1つが、市民向けの勉強会とか、そうした企画なんですけれども、考えてはコロナのために延期という状況が続いています。

4番目の調査なんですけれども、堺市の文化芸術の取組をどのように検証していくか、そして、そのこと自体を通して、補助金の事業であったり伴走支援なんかも使いながらヒアリングをしたりとかして、アーツカウンシル自体の活動についても評価をしていこうと思っ  
てますし、それがひいては堺市の文化芸術の状況を分析をしたり、また今後どのようにしていけるかということを探っていくひとつの契機にしたいと思っています。以上です。

#### ◎中川会長

ありがとうございます。滑り出したばかりですけども、今のところ、非常に私は幸せなスタートラインが切れているんじゃないかなとは思ってます。

これから大きく育てていっていただかないけませんので、先ほどアーツカウンシル部会委員になられた審議会メンバーも仲間と思ってよろしくお付き合いください。

それでは、今までの話をお聞きいただいて、このアーツカウンシルに対する期待と申しますか、コメントございましたら、各委員から順番にいただきたいと思います。藤野先生の方からよろしいですか。

#### ○藤野会長代理

こういう形のアーツカウンシルは多分日本で初めてだと思うんですね。多くは文化振興財団の中に設置されていて、それ本当に自立性があるのかと、すごく不思議な感じがずっとしていました。今回のこのくくり方ですね、だいたい審議会そのものも、アーツカウンシルですからね。審議会も含めて、アーツカウンシルという見立てというのは僕は画期的だなと思っています。

ですから、今後これがうまく機能する、本当に素晴らしい人材が集まってそれでうまく機能することを願っていますし、私も一員ではないですが、いや一員ですね、審議会のメンバーだから一員なんですよ。とっても楽しみにしております。ありがとうございます。

#### ○弘本委員

今日、会議が始まる前もすごく良い雰囲気です。皆さんが情報交換されていて、そういう場として、この審議会が機動的に動いていくと申しますか、そういうふうな形になっていることがすごく嬉しいなと思って、とても清々しい気持ちで今日この会に臨ませていただくことができました。本当に素晴らしいメンバーの方に集まって頂いて、感謝しておりますし、これから非常に良い議論ができるでしょうし、実際に形に結びついていくということを実感できて本当に嬉しく思っています。ただひとつ冒頭の議題のところ、ちょっと発言の機

会を逸してしまったんですけども、この事業取りまとめカードについて、上田さんからも少し指標の補足などのご意見が出て、私もその通りだなと思ってお聞きしたんですけども、ちょっと余談になってしまって申し訳ないですがついでに発言させていただきますと、これまでに実際に訪問して検証評価をした事業もいくつかありますよね。

内容まで書く必要はないので、何年度に検証評価対象にしたということを、何か印でわかるようにしていただきたいと思います。そうすると少なくとも、そこには何人かの委員が行って、議論をして意見交換を現場の人ともしてということが過去にあったということはわかるわけですね。そうすると、そこでどういう議論があったかというのはある程度資料を遡ればわかりますし、また行った人間は記憶にもありますので、その上でこの事業の組み立てなどを見て、反映されてるケースとそうでないケースが、やっぱり出てくるんですよ。読んでいても、それなりに受け止めてやっぱり前向きに改善されようとしているなというニュアンスと、全く関係ないところがやっぱりあるように思うんです。何かそういうところの注意喚起ができていくと良いかなと、その一覧を見たときに変えようと努力してらっしゃるところというものはわかるので、その他の方々も、こういうふうな変え方というものがあるんだなというような、そういうヒントにもなるような気がするんです。だからそこは、ぜひ、少しの情報の補足によって、そういう動きを作っていくことができたらいいのかな、それがPDCA 評価に繋がるのかなというふうに思いました。それと、これをまとめられたことによって、アーツカウンシル部会、アーツカウンシルの皆さんがこれからいろんな活動をされていくときの資源というか台帳みたいなものでもあるなという気がしたんですね。これからの事業を、研修であれ、様々なことを取り組んでいかれる中で、ここと上手く結びついていく、つけていくというような発想で見ていただいただけると、先ほど有機的というお話も出ましたが、よりそういう形に結びついていくのかなと思って、そんな期待をしながら拝見しました。よろしくお願い致します。

#### ○坂東委員

はい、アーツカウンシル部会に前回加わらせていただいて、いろいろ書類で判断するしかなかったので、書類はいろいろ拝見したんですけども、やはり、こういう助成金へ参加される、応募されるのが初めてという方がほとんどだったと思うので、あの書類の書き方に慣れてない方がほとんどだなというのはすごく感じました。

ですので、実際にあの自分たちが計画しているものを十分、伝えきれてないということも非常に感じましたので、不採択の事業はもちろんですけども、採択された事業者の方にも、書類の書き方というか、もっとこういうところをアピールするべきみたいなものを助言するようなこともちょっと必要なのかなということは思いました。

今回からは視察というのが加わりますので、書類だけではない評価というのもできると思いますけれども、そういう資料を書くことに対して、もう少し意識を持ってもらいたいというか、それによって自分たちの事業の意義みたいなことも見つめ直すことができると思いますので、そういうところも助言していただければいいなというふうに感じました。以上です。

●事務局

今回、アーツカウンシルに企画をいただいておりますので、ぜひ支援をしていきたいと思  
います。

○永島委員

アーツカウンシルという我々には名前も割と知られているところがあるかもしれませ  
んけれども、まだまだ一般的な活動をなさっている方々にいきなりアーツカウンシルと言  
ってもなかなかイメージは湧かないと思いますので、ぜひそこをできるだけアピールして  
いって、噛み砕いた言葉で伝え、そしてチラシひとつとってもそうですし、やはりせつかく  
素晴らしい内容のものが出来ようとしているということを 1 人でも多くの関係する市民の  
方に、自分のものとして、自分が関係するものとして、伝わるような努力を、これからして  
いかないといけないし、だからこそものの始まり塚ということで、もう日本のね、代表とし  
て塚にアーツカウンシルありということで頑張っていたきたいと思いますので、ぜひよ  
ろしく願います。

○菅野委員

このアーツカウンシルが入ることによって、すごく幅広い意見が交わされてきているな  
と、今日すごく思っていますので、塚市のこれからの芸術が発展していくきっかけになっ  
ていくんだろうと、今すごく期待をしているところです。やっぱり文化芸術というのは共生  
社会を作っていく有効な手段であると思いますので、今のこのコロナの中でギスギスして  
いるこの社会がこういったアーツカウンシルが入ることによって、塚市の芸術が発展して、  
それでもって、市民が豊かな心を持って過ごすことができるものになっていけばいいなど  
今、期待しながら、ここにおります。よろしく願います。

○さいとう委員

この助成金の審査だけでもすごく大変だったと思うんですが、塚市民ですので、私すごく  
ありがたいなあとと思ってさっきからずっと聞かせていただいていたので、ぜひ皆さん、楽し  
んでやっていっていただけたらと思います。頑張ってください。願います。

○柿本委員

意見書にも書かせていただきましたけども、大変な作業を部会の方々、PD さん、PO さん、  
関係者の方々、携えていただきまして、この採択事業を見ましても、非常に様々な方向から  
応募があったと。大変だったと思いますけれども、素晴らしいものが出来つつあるなとい  
うので、非常に期待一杯であります。特にスタートアップ支援事業というのが、私は期待して  
おりまして普通の市民がちょっと集まって、こういうことやろう、そういうのがどんどん輪  
になって、草の根からそういうものが広がっていくということがやっぱり、その文化力とか  
芸術力に繋がると思うので、特にこれ 1 回で、例えば落ちたところが、もう次から応募しな  
いというふうなことがないように、さっき、上田さんの方からもちゃんとそういうことで対

処していただいているという報告を聞きましたので、非常に期待しております。ありがとうございました。以上です。

◎中川会長

本日の審議は全て一応終わりました。最後に事務局さんから何かご連絡ありましたら。

<事務局より説明>

◎中川会長

ありがとうございます。それではこれもちまして審議会を終了したいと思います。

予定7分オーバーしましたが、決して無駄な時間ではなかったと思いますので、よろしくをお願いします。

今ふと思いついたんですが、アーツカウンシルのあだ名を募集したらどうでしょう。堺町衆文化応援隊とか。勝手につけているんですけど、何か言いたい放題で考えたらどうですかね。はい、今年度はこれできますとかね、来年また変わりますとか、そんな中で楽しんでいきましょう。どうもありがとうございました。